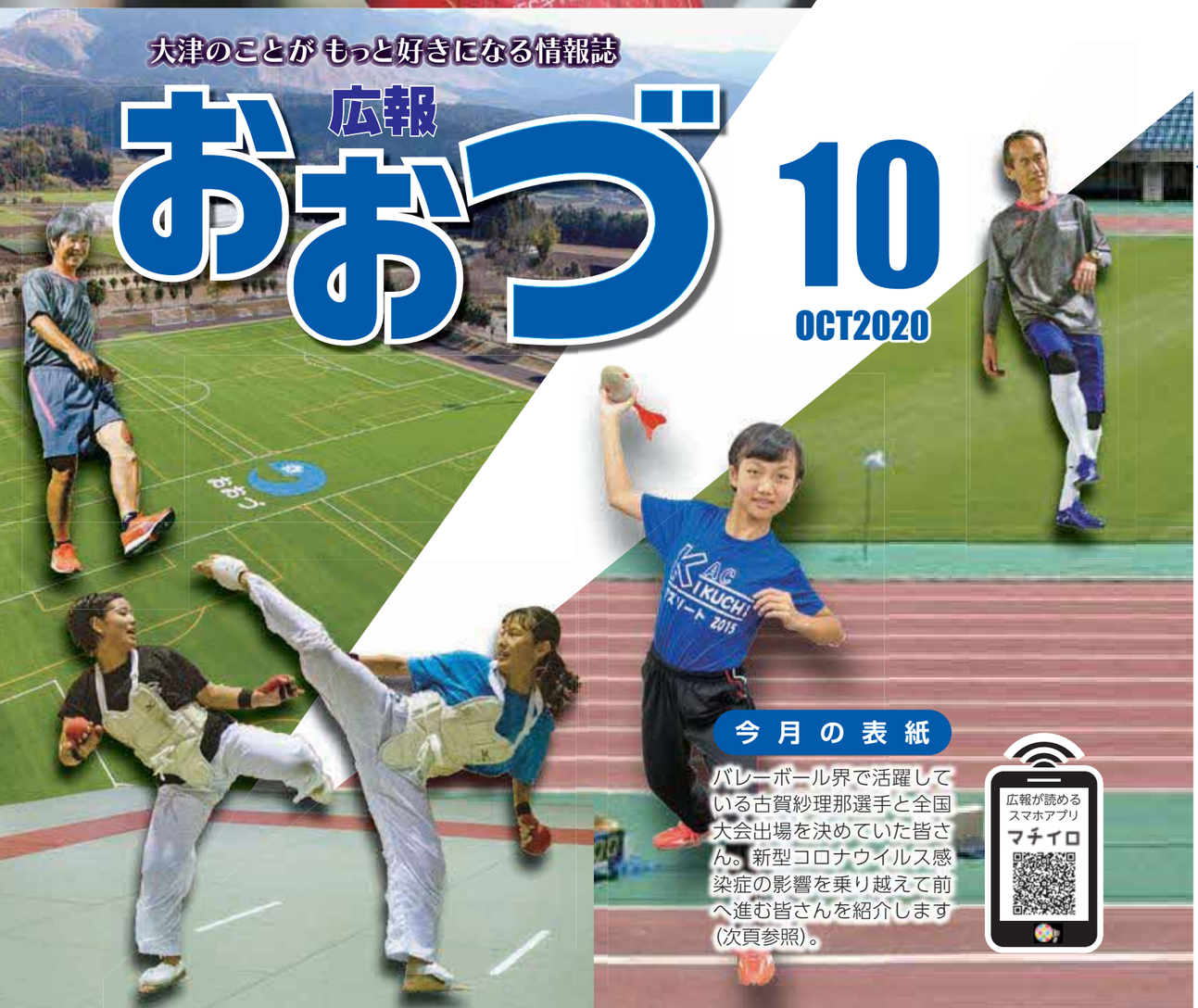
大津のことが もっと好きになる情報誌

広報おおづ 10

OCT2020



今月の表紙

バレーボール界で活躍している古賀紗理那選手と全国大会出場を決めていた皆さん。新型コロナウイルス感染症の影響を乗り越えて前へ進む皆さんを紹介します（次頁参照）。

広報が読めるスマホアプリ マチイロ

Public relations OZU TOWN

広報おおづ 2020 10

発行・編集■大津町・総務課
〒869−1292 熊本県菊池郡大津町大字大津1233番地
TEL.096(293)3111 http://www.town.ozu.kumamoto.jp/

印刷■ホープ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

つつじ祭りの武者行列に参加する小学生の着付けもボランティアで長年続けている㊨。子どもたちが施設を訪問した時の様子などが収録されたDVDを傾聴ボランティアで配っている㊧

Close-up Ozu-jin

クローズアップ！大津人

文化庁委託による大津町こども日本舞踊教室の子どもたちの発表の様子

小さな光も集まれば大きくなる わたしにできることを

竹永（たけなが） 美重子（みえこ） さん（大津）

400年前から、時代に合わせて継承と新しい技法などでの洗練を繰り返してきた日本舞踊。ここ大津町にも伝統を守る人がいる。今回は、ボランティアで日本舞踊を教える竹永美重子さんをクローズアップする。

「せっかくの伝統を途切れさせたくない」と始めた日本舞踊の指導。竹永さんは「子どもたちには、日本舞踊はもちろんだが、あわせて礼儀と感謝の気持ちを学んでほしい」と話す。日本舞踊には歌舞伎の要素が含まれており、歩き方や所作を通して礼儀を学ぶことができる。また、見る人が想像を膨らませるしなやかな動きが特徴だ。そのため、歌詞と踊りを並行して教えている。着物の着付けや道具の貸し出しなど、協力してくれる皆さんへの感謝の気持ちを持って欲しいと竹永さんは語る。

竹永さんにはもう一つの顔がある。仮設住宅やお年寄りの家を回る傾聴ボランティアだ。傾聴とは、相手の心に寄り添い、相手の話をありのまま受け止めて「聴く」こと。10年前から活動を続け、毎月聞き取った内容を県に報告している。時には子どもたちと一緒にお菓子を持っていくことも。「子どもの人を笑顔にする力にはかなわない」とほほ笑む。しかし、コロナ禍では傾聴に訪問するのも難しい。お年寄りに感染の危険を与えるわけにはいかない。それでも困っている人、寂しい人、話を聞いてほしい高齢者が増えているのも現実だ。竹永さんは、子どもたちが施設を訪問した際の映像など今までの活動を収録したDVDを渡し、少しでも楽しんでもらえる工夫を行い、少しでも助けになればと立ち止まらない。

「町には素晴らしい文化（日本舞踊）があるのに知らない人が多いのはもったいない」。町内のイベントなどで皆で踊れるようになったらどんなに素晴らしいか。伝統文化と竹永さんの思いを受け継ぐ教え子が、教える側になる日が待ち遠しい。

つつじの声

▼大型で非常に強いと心配された台風10号でしたが、大きな被害が出ずにほっとしました。台風が過ぎると、夏も一緒に通り過ぎて行ってしまったように涼しくなりました。そこで私も、夏の間暑すぎて休止していた徒歩での通勤を再開しました。スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋などいろいろありますが、私はやっぱり「食欲の秋」。おいしいものを楽しむためにも一番大切なのは健康であること（暁）

からいもくん便り

大津町総合情報メール

登録方法：ozutown@gw.ansin-anzen.jp に空メールを送信してください（スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信）。

大津町公式アカウント

友だち追加の方法
①LINEの友だち追加の画面から「@ozutown」で検索する。
②次のバーコードを読み込む。